

議長（茅根猛君） 次，1番藤田謙二君の発言を許します。

〔1番 藤田謙二君登壇〕

1番（藤田謙二君） こんにちは。1番藤田謙二でございます。ただいま議長より発言のお許しをいただきましたので，通告順に従いまして一般質問をさせていただきます。

未曾有の大震災から半年が経過しようとしています。いまだに続く頻繁な余震には不安もさることながら，妙に地震なれしてしまった感があり，余り油断をし過ぎないよう地震に対する防災意識を持続していかなければと感じているところであります。

一方で，復旧に向けた取り組みについては，庁内が一丸となり，市独自の支援策を推進されるなど，賢明な対応により近隣自治体の中でも比較的順調に進んでいるように思われ，市民の間でも市内各地の夏祭りやイベント等に象徴されるように，元気を出して復興していこうといった前向きな機運の高まりや，気持ちの面でも徐々にゆとりが出てきたように感じられます。

先月，太田祭り自粛に伴い，市民有志により実行委員会で開催された「がんばってます常陸太田夏祭り」においては，例年二日間開催していたものを1日のみの開催といった影響もあったのかもしれませんが，1日だけの来場者数で言えば，例年を大幅に上回る多くの方が会場を訪れ，近年では最も盛り上がりを見せた雰囲気でありました。

また，市役所に投稿のあった市内中学生の祭り実施を望む熱い思い，結果，中学生を含む学生ボランティア参加者も例年の2倍近い141名を数え，過去最高となるほどでありました。そんな学生や市民の思いをしっかりと受けとめて，さらなる市民サービスの向上に向けた取り組みを推進していかなければと実感した次第であります。

そこで今回は，常陸太田市第5次総合計画前期基本計画の最終年度を迎えるに当たり，今年2月に実施され，7月に調査結果のまとまった第5次総合計画後期基本計画策定に伴う市民アンケートも踏まえ，中心市街地活性化について3項目，消防救急体制の強化について1項目の質問をさせていただきます。

まず，中心市街地活性化について，トライアングル構想としても掲げてある3地区についてお伺いいたします。

1つ目は，常陸太田駅周辺地区の利活用についてでございます。7月に待望の新駅舎が完成し，駅前の国道349号及び293号の整備が進み，交通渋滞も緩和されつつあり，同時に銀行の新規出店などにより，駅前周辺の景観も大分さま変わりしたように思います。しかしながら，車の交通の利便性は向上したものの，にぎわい創出という点ではまだまだ多くの課題を残しているのも事実であります。

8月には，地元山下町会の住民が主体となって企画，運営したイベント「常陸太田駅夏物語2011」が駅前広場で開催され，多くの来場者で盛況に実施されましたが，道路と新駅舎完成といったハード面での整備が一段落した中，今後，駅前周辺地区のソフト面での展開が求められてきています。

そこで，行政としての今後のソフト面での構想について，どのような推進策を考えているのかお伺いいたします。また，市民アンケート調査集計結果においても，一般，中高生ともに生

活基盤，都市基盤の分野で，バスや鉄道などの公共交通機関についてが不満度の高い施策としてトップに上げられていますが，水郡線の利用促進並びに駅前を起点とした公共交通体系の整備について，今後の対応策をお伺いいたします。

2つ目は，国道349号バイパス沿道地区開発についてでございます。この件については，昨年12月の一般質問でも取り上げさせていただき，その際，スーパーマーケット，ホームセンター，電気店を含む大型商業施設の出店計画を申し出た民間事業所から計画の根拠づけとなる商圈設定の考え方について説明があり，計画実現に向けた具体的な協議がスタートした状況に入ったとの答弁をいただきました。そこで，その後当該事業所とは進展が図られているのか，進捗状況についてお伺いいたします。

3つ目は，鯨ヶ丘地区の将来像についてでございます。この件についても昨年の12月，そして今年の6月の一般質問でも関連の内容を取り上げさせていただいておりますが，再度質問をさせていただきます。

鯨ヶ丘地区に関しては，これまでも歴史的町並みや景観を生かしたまちづくり事業や，空き店舗を活用した起業者への支援事業など，さまざまな切り口で活性化に向けた取り組みが行われてきています。しかし，どちらかというところ漠然とした将来像などと，担当部署ごとによる縦割りの施策となりがちで，どのような町を残し次世代に継承していくのかといった明確な目標設定，中期的にわたる具体的な計画などが庁内はもとより行政と市民との間でもいま一つ共通認識されていないように感じてなりません。

震災で歴史的建造物などが被害を受けたこの時期だからこそ，行政と商店会を含む地域住民，さらには商工会などが一堂に会し，鯨ヶ丘の取り組むべき課題について議論し，コンセンサスを図り，施策の具現化を図っていくことが大切であると感じています。蔵や路地など歴史的な町並みを生かしたまちづくりのためには，商店街ににぎわいを取り戻すためには，生活基盤の整備のためには等々，関連する文化課や都市計画課，商工観光課などの部署が担当の専門分野のみに特化することなく，総合的な見地から鯨ヶ丘地区のランドデザインを考えていくことが重要であると思っています。

市民アンケート調査でも後世に残したい地域の宝物として，鯨ヶ丘の町並みが上位に上がっています。今のまま5年，10年と放っておいたら，今回の震災でダメージを受けたように，いろいろな地域財産を消失してしまうのではといった危機感を抱かずにいられません。そこで，できるだけ早い時期に庁内で関連する部署，行政と地域住民，商工会などによるプロジェクトチームを立ち上げ，共通理解のもと，鯨ヶ丘地区の将来ビジョンやそれぞれの役割を明確にしながら，総合的かつ計画的な施策の推進を強く望みますが，ご所見をお伺いいたします。

次に，消防・救急体制の強化についてでございます。市民が安全で安心して暮らすことのできる地域環境づくりのためには，救急医療体制の整備や消防，防災体制の充実が重要であります。市民アンケート調査でも，保健，福祉，医療の分野で病院などの医療機関の整備，救急医療体制などについてとの項目が最も重要な施策との集計結果が出ており，あわせて満足度においては満足と不満との回答がそれぞれ約3割ずつと意見が分かれており，県内一の広い面積に

加え、山間地域を有する本市においては、そのサービスに格差が生じているように推察するところであります。また、高齢化の進展や市民ニーズの多様化などの社会情勢の変化に伴い、救急需要も今後増大することが予測され、救命率向上のためのプレホスピタルケア、いわゆる病院前救護の充実など、より高度な対応が求められております。

そこで、管内面積が広い本市においては、医療機関に収容するまでの所要時間も要する中、緊急の治療が必要な患者の受け入れなどに支障が出ないことが望まれますが、第5次総合計画前期基本計画の中でも掲げられている救急医療体制の整備について、中核病院との連携及び救命率の現況についてお伺いいたします。

また、近年の救急活動については、救急救命士の処置拡大にあわせ、現場での活動も複雑多様化する中、救急車とポンプ車によるPA連携、さらには、昨年7月から運航がスタートされたドクターヘリや防災ヘリの活用など多岐にわたり、その初動対応や緊急対応、救援、救護活動など、消防、救急に求められる役割が増大しています。

そのような背景のもと、茨城県消防広域化推進計画の中でも現場の消防職員数が不足していることが課題とされています。来年4月に開設される金砂出張所は、機動力の向上といった役割とあわせて、近隣住民からの期待も大変大きいものと感じていますが、その新設に当たり、施設や資機材と同様に、人員確保の観点からも職員の増強が必要なのではと考えますが、今後の人事計画についてお伺いいたします。

以上4項目、7件についてお伺いいたしまして、私の1回目の質問を終わります。答弁よろしくお願ひいたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

建設部長（菊池拓夫君） 中心市街地活性化についてのご質問にお答えいたします。

中心市街地活性化の考え方につきましては、これまでもHOPE計画、町なみ環境整備計画、中心市街地活性化基本計画、コンセンサス形成事業など、行政の関係各課はもとより、市民や地域の皆様の参画のもと、将来ビジョンを示した計画作成と、これら計画に基づく各種施策を進めてきたところですが、事業によっては地域の皆様との合意形成が得られないものもあり、全体としてはまだまだ不十分であると考えております。

現在は、平成21年3月に見直しました都市計画マスタープランの中で、駅周辺地区については市の玄関口として公共交通の利便性を向上させ、商業・観光機能の充実を図る拠点としての位置づけを、国道349号沿道地区は、大型商業施設などの立地誘導による拠点としての位置づけを、鯨ヶ丘地区は、観光資源や歴史的建築物、歴史的景観などが残されており、憩いの場としての位置づけをしているところであります。

この中で、まず常陸太田駅周辺の利活用についてでございますが、新駅舎が完成し、国道349号や国道293号が整備され、ハード面については完成したところでございます。さらに、地域振興や活性化を図るためのソフト面の取り組みといたしまして、まず、駅前広場につきましては、一般の方や団体によるイベント等の活動を積極的に応援してまいります。また、駅構

内の観光案内センターには、担当者を常駐させ、観光案内とともにレンタルサイクルの貸し出しや、本市地場産物の販売PR等も行っているところがございます。JR水郡線利用者のためには、パークアンドライドとして無料駐車場を用意するとともに、月決め駐車場においても水郡線駅利用者には減免措置をとっているところがございます。また、日立電鉄線跡地周辺の未利用地等につきましても、市民の期待するような土地利用が図られることが重要でありますので、民間活力を生かすとともに、関係機関と連携を図るなどしながら良好な環境づくりを誘導してまいりたいと考えております。

続きまして、国道349号バイパス沿道地区開発の中の大型商業施設、県計画の進捗状況についてでございます。国道349号バイパス沿道地区については、これまで数社が大型商業施設の出店計画につきまして市に問い合わせがございました。この実現のためには、農業振興区域の除外や給排水の整備、そして既存の商店街との共存など、さまざまな課題がありますことから、それらについて周到な計画を立案されるよう助言したところがございます。昨年12月以降は震災もあり、連絡等も途絶えておりましたが、最近問い合わせが再開したところです。

市といたしましては、当面は民間事業者による計画の進捗を見きわめるとともに、関係各位や関係機関の皆様と調整を図りながら適正な立地誘導を図り、関係者等からなる委員会等を設置し、地区計画策定に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、鯨ヶ丘地区の将来像についてのご質問でございます。平成21年3月に、市民各層の参画のもと見直しをいたしました都市計画マスタープランに掲げる鯨ヶ丘地区の将来都市像ですが、1つには、歴史や地形を生かした落ち着いた雰囲気のある町並みを生かした観光資源の町、2つには、地元の人々や来訪者などが気軽に立ち寄れる憩いの場としての町、3つには、近隣型の気軽に利用できる商業地としての町、4つには、安心して暮らせる生活空間としての町を掲げておるところでございます。

鯨ヶ丘地区には、今回の震災で被害を受けた歴史的建造物や蔵も多くございますことから、これらの保存のあり方も含めて皆様と協議を深める協働の力で復旧・復興を図るとともに、さらなるにぎわいづくりや安心して暮らせる生活空間づくりに努める必要があると考えます。

その際、地域住民の皆様の意向やコンセンサスが何よりも重要であることから、地域の皆様の主体的な議論や取り組みが必要であると考えており、そのような場づくりについても支援をしてまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 政策企画部長。

〔政策企画部長 佐藤啓君登壇〕

政策企画部長（佐藤啓君） 水郡線の利用促進及び駅前を起点とした公共交通体系の整備のご質問にお答えいたします。

初めに、水郡線の利用促進についてのご質問ですけれども、水郡線太田線につきましては、常陸太田駅での1日当たりの乗車数が平成18年度の1,318人をピークに少しずつ減少傾向を示している状況にありますけれども、水戸市と常陸太田市を結ぶ当該水郡線は、高校生などの通学や通勤のための重要な交通手段であるとともに、本市の活力向上及び魅力ある交流空

間づくりを進めていくための生命線であると認識しております。

このような考えのもと、1つとしては、地元利用者の利便性の向上、2つ目としては、水郡線を利用する観光客の拡大、3つ目としましては、水郡線に対する愛着心の醸成、この3つを大きな課題ととらえまして、それぞれについて対策を講じてきているところでございます。

1つ目の地元利用者の利便性の向上につきましては、常陸太田駅周辺地区が市の表玄関口にふさわしい魅力ある駅前空間となりますよう、平成18年度から交差点改良や駅前広場、駐車場、駐輪場、駅舎などのハード整備を進めてきたところでございます。今後は市内にある常陸太田駅以外の駅につきましても、駐車場、駐輪場の拡充、新設によるパークアンドライドサービスの充実を図ることなどにより、水郡線の利用者の利便性向上を図ってまいりたいと思っております。

また、水郡線利用者の利便性向上のソフト対策といたしまして、水郡線沿線市町や県と連携を図りながら、通勤通学時間帯における運行本数や車両数の増、それから、常磐線との接続改善など利用環境改善に向けた働きかけをJR側にこれまでも行ってきておりますが、なかなか十分な成果を得られていないというところもありますので、新駅舎の竣工を機にさらに積極的な要望活動をしてまいりたいと考えております。

次に、水郡線を利用する観光客の拡大という2つ目の課題につきましては、駅舎コミュニティスペースや駅前広場、観光案内センターを活用しまして、市民や観光客など水郡線利用者への情報発信機能の充実を図るとともに、市民や来訪者の交流活動を促進するための企画事業やイベント等を開催するなど、市民との協働によるにぎわいづくりを庁内関係部課が連携をして積極的に推進してまいりたいと考えております。

3つ目の水郡線に対する愛着心の醸成という課題については、このたびの新駅舎の完成に合わせまして、現在水郡線沿線の地域団体や鉄道利用者、それから市内高校生などが活動の中心となる太田線と駅を愛する市民応援団の立ち上げを進めているところでございます。市民の皆様が中心となって水郡線の利用促進策や常陸太田駅の活用策などについて企画実施することを目指しておりまして、市としてもこれらの活動に多くの市民の皆様に参加いただけるよう積極的に支援してまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、駅前を起点とした公共交通体系の整備についてのご質問にお答えいたします。このたびの常陸太田駅周辺地区の整備により、駅前広場内に交通ロータリーが整備をされまして、バスやタクシー、それから自家用車の乗降場が整備されましたので、現在はすべての路線バス、それから市民バスが駅前広場に乗り入れを行っております。そして本年4月からは、金砂郷地区、水府地区、里美地区からの通勤通学者の利便性を高めるために、常陸太田駅7時発の水郡線に接続する3地区からの路線バスの運行も開始したところでございます。

今後は、二次交通としての役割を担う路線バスや市民バスの運行事業者との間でJR水郡線ダイヤとのアクセスの改善、それから、乗り継ぎの利便性向上に向けた具体的な検討協議を進めるとともに、駅を起点に市街地内を循環するバスの運行系統の構築や、高速バス下り便の駅前広場内交通ロータリーへの乗り入れと、その二次交通のアクセス確保策などについて関係機

関と検討協議を重ねながら、現在見直し作業を内部で進めております常陸太田市地域公共交通計画の中に、その方向性などをまとめてまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（茅根猛君） 消防長。

〔消防長 福地壽之君登壇〕

消防長（福地壽之君） 消防救急体制の強化についてお答えいたします。

初めに、中核病院との連携状況でございますが、平成21年5月1日に消防法が改正され、都道府県に救急搬送及び受け入れの実施基準の策定が義務づけられております。これに伴い、茨城県では各地区のメディカルコントロール協議会を中心に、診療科目による救急搬送を原則無条件で受け入れる医療機関を定めたところであり、救急隊員が県内統一の観察基準表による傷病者の重症度判断を行い病院を選択数する取り組みを、本年1月1日から3カ月の試行を経て4月1日から本格運用が開始されているところでございます。

なお、対象となります傷病者は、中等症以上であり、医療機関が実効性のある受け入れを行うために救急隊と連携し、観察基準の向上など円滑な運用体制の確立に取り組んでいるところでございます。

続きまして、救命率の現状についてでございますが、救命率アップのために消防本部では救急救命士の養成、救急隊員の教育、救急資機材の整備、市民への応急手当の普及に取り組んでいるところでございます。

救命率につきましては、心肺停止の状態から社会復帰できる割合であり、平成22年は3.4%となっており、平成18年の2.9%と比べますと向上してきております。また、昨年からはドクターヘリも運用開始されており、さらに救命率がアップするように努力してまいります。

次に、金砂出張所新設に伴う人事計画についてお答えいたします。金砂出張所の開設につきましては、北消防署からの道路状況が悪く、救急車到着時間が10分以上かかる山間地域の救急体制の改善を図るために、下宮河内地内に整備を進めているところでございます。金砂出張所につきましては、北消防署の組織の一部と位置づけ、北消防署、里美出張所、金砂出張所の3カ所の消防拠点の一体的な運用により災害に対応する計画となっております。

人員配置につきましては、救急車の運用基準である3名を常時配置するため、消防本部の災害出動車両や人員の配置、運用の見直しを行い、条例定数の中で、現在よりも効率的かつ効果的な消防活動ができるよう配置いたします。

以上です。

議長（茅根猛君） 1番藤田謙二君。

〔1番 藤田謙二君登壇〕

1番（藤田謙二君） ただいまは、各項目ごとに答弁をいただきありがとうございます。2回目の質問については、それぞれの項目ごとに要望または再質問をさせていただきます。

まず、中心市街地の活性化についての常陸太田駅周辺地区の利活用についてですが、答弁にもありましたように、都市計画マスタープランの中でも市の玄関口として公共交通の利便性を

向上させるとともに、商業、業務、観光機能の充実を図るため、市のシンボリックな地区として整備を進めると掲げられております。日立電鉄跡地への商業施設の集積も含めて、ぜひ答弁いただいたそれぞれの取り組みについて実現を目指して、できるだけ早い時期に実行していただけることを望みます。

また、水郡線の利活用推進については、今後の予定を細かくご答弁いただきありがとうございます。JRはもちろん、沿線の都市との連携も非常に重要になってくると思います。現在、那珂市では市民主導による上菅谷駅を中心とした駅前周辺の活性化事業として「カミスガプロジェクト」という組織が立ち上がり、行政や商工会などと連携を築きながら、来月早々には初となるイベントも開催されることになっています。今後、そういった他市の事業とも連携を図りながら、例えば終着駅といった1つの個性をうまく生かしていくなど、水郡線の魅力向上への取り組みに期待をいたしております。

次に、国道349号バイパス沿道地区開発については、現況を理解いたしました。民間事業者からの申請を審査し、農振地域などの除外などを地区計画制度にのっとり、整備を進めるという状況の中、乱開発を避ける意味でも行政としてしっかりとした助言、さらには、以前にも要望しました大型商業施設の地域社会貢献を促すガイドライン策定についても同時に検討を重ねた上で、適正な立地誘導を図っていかれるよう望んでいます。

鯨ヶ丘地区の将来像については、プロジェクトチームの設置までには至らなくても、庁内各部署による横断的な組織体制は整ったとの認識でよろしいのか。また、その窓口となるのは、今回答弁いただいた建設部ということで理解してよろしいのかについて、確認の意味も含めて再度お伺いいたします。

続いて、消防・救急体制の強化についてですが、中核病院との連携状況及び救命率については現況を理解いたしました。救急患者の搬送については、医療機関によるスムーズな受け入れ協力が必要不可欠であり、そのことが救命率の向上にもつながるものと思いますので、中核病院に限らず、市内の救急告示病院を中心とした医療機関とのさらなる連携強化を図っていただけるよう望んでいます。

また、金砂出張所新設に伴う人事計画については、現在の定数の中でということですが、常時3名配置となると里美出張所同様、8名の職員を配置するという理解でよろしいのでしょうか。であるならば、どこかの部署から人員を回すということなるかと思いますが、マンパワーが分散することで、市民への対応がこれまでよりも薄れてしまうなどといった心配や影響がないのかについて再度お伺いいたします。

議長（茅根猛君） 答弁を求めます。建設部長。

〔建設部長 菊池拓夫君登壇〕

建設部長（菊池拓夫君） まちづくりにおきまして、市の中のコンセンサスはという、まず第1点でございますが、これは担当部署におきまして、まず建設部、政策企画部、産業部につきまして打ち合わせ等を行っております。当然まちづくりということで役所的には進めております。

それと窓口ということでご質問ですが、おっしゃっているとおり、建設部の都市計画課ということで対応してまいりたいと考えております。

議長（茅根猛君） 消防長。

〔消防長 福地壽之君登壇〕

消防長（福地壽之君） 2回目のご質問にお答えいたします。

金砂出張所の人員配置につきましては、里美出張所と同様に8名を考えております。また、消防活動に関しましては、先ほども申しましたように、北消防署里美出張所、金砂出張所の消防車両、人員を有効かつ一体的に運用することで、現在の消防力を維持するとともに、消防活動の基本であります「いち早く災害現場に到達し、迅速な活動により被害の軽減を図る」ということが広い地域で可能となり、現在よりも多くの市民の安心・安全に寄与することができると考えております。

議長（茅根猛君） 1番藤田謙二君。

〔1番 藤田謙二君登壇〕

1番（藤田謙二君） 2回目の答弁ありがとうございました。

最後に総括という形になりますが、ぜひ鯨ヶ丘地区を1つのモデルケースとして、今後地域やエリアごとによるビジョンの策定、また、庁内において関連する部署による横断的な組織を作る場合、その窓口となる部署の明確化、さらにはコーディネーターとしての担当職員の育成などを図っていただけることが、市民協働による地域づくりの推進においてもとても大切なことであると感じておりますので、ぜひ今後の展開に期待をしたいと思います。

そして、市の財政が厳しい中、効率性を高めるとともに、経費を削減していくということは当然のことであると理解をいたしておりますけれども、消防団員のサラリーマン化や高齢化による団員の確保が課題となっている状況から、住民の生命、身体、財産を守るという大切な役割を担う専門的知識と経験を有する消防職員については、これまでも当然行われていることと認識しておりますが、今後さらなる検証を重ねて、さまざまなケースを想定し対応できる人員の確保という観点から、条例定数の見直しということも再検討していただきながら、すべての市民が安全で安心して暮らすことのできる環境づくりの整備、推進を望みまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。